

《短報》

ナギサヒモムシの九州からの初記録

亀井裕介¹⁾・松田真紀子²⁾

¹⁾ 佐賀大学農学部, 〒840-8502 佐賀県佐賀市本庄町1

²⁾ 豊田ホテルの里ミュージアム・サポーター会員, 〒750-0441 山口県下関市豊田町大字中村50-3

はじめに

ナギサヒモムシ *Acteonemertes orientalis* Hookabe *et al.*, 2023 は干潟や海岸の潮上帯の転石下に生息する紐形動物であり, 本州(福井県及び山口県)の日本海側に生息していることが知られているが, 九州での生息に関する情報は知られていなかった(Hookabe *et al.*, 2023)。

今回, 福岡県と熊本県および宮崎県において本種の生息を確認したので, 九州での初記録として報告する。

採集記録と生息環境

ナギサヒモムシ(図1)の記録を以下に, 採集・確認地名, 採集・確認日, 個体数, 採集・確認者名, 生息環境の順に報告する。なお, 福岡県の記録については目視のみであるが, 他は採集し, その標本は採集者が保管している。また, 佐賀県唐津市においても本種の可能性があるヒモムシを見つけているが, 同定根拠に欠けるため採集記録からは除外した。

・福岡県北九州市門司区喜多久, 2023年6月18日, 4個体, 松田真紀子, 海岸林に接した礫浜(飛沫帯)の石の下で, 石は砂礫に埋まっていたり湿っていた。同所的にノトチョウチンワラジムシ *Armadilloniscus notojimensis* (Nunomura, 1990) が見られた。

・宮崎県延岡市浦城町, 2024年11月2日, 2個体, 亀井裕介, 両脇の護岸が舗装された水路のような外観の湾奥の突き当たりに形成された砂地の干潟に生息していた。潮上帯上部の砂や固い泥に埋もれた石の下に生息しており, 同所ではツブカワザンショウ *Assiminea estuarina* Habe, 1946, カハタレカワザンショウ *Xenassiminea nana* Fukuda, 2023 などが採集された。

・熊本県水俣市袋, 2024年11月24日, 1個体, 亀井裕介, 港湾内に形成された干潟で(図2), 同所ではナギサハネカクシ属の1種 *Bryothimusa* sp., ウスコミミガイ *Laemodonta exaratoidea* Kawabe, 1992 などが採集された。採集した個体は体の後半部が潰れていたが, 眼点が4つであることから本種と同定した。

謝辞

本稿の執筆にあたり, 本種に関する情報をご教授いただいた海洋研究開発機構 地球環境部門 海洋生物環境影響研究センターの波々伯部夏美氏, 同定に関するご助言をいただいた藤野勇馬氏, 採集にご同行いただいた佐賀大学農学部の大橋壮汰氏, 椎葉那月氏, 佐賀大学理工学部の三吉隆太郎氏の皆様に厚く御礼申し上げます。



図1. ナギサヒモムシ (宮崎県延岡市)



図2. 生息環境 (熊本県水俣市)

引用文献

Hookabe N., Fujino Y., Jimi N., Ueshima R. (2023) At the edge of the sea: the supralittoral nemertean, *Acteonemertes orientalis* sp. nov. (Nemertea: Eumonostilifera: Plecton) from Japan. *Invertebrate Systematics*, **37**(5-6): 444-456.